

第51回 ウランバートル・アジア選手権大会 監督報告

5月17日より21日までモンゴルの首都ウランバートルにおいてアジア選手権が開催され、日本は団長藤原達也会長代行、監督 朝生照雄、コーチ兼通訳 木下美弥子、コーチ 斉藤 円・木下喜樹、選手21名(男子10名 女子11名)、その他月刊ボディビル誌の鎌田勉氏、ジャッジテスト受験で新井敬子氏が参加し、外国開催の国際大会としては過去最大規模の総勢28名で臨んだ。

【AFBF役員会議】

玉利会長が闘病中のため総会に藤原副会長代行と木下美弥子通訳兼コーチと出席し、日本におけるドーピング施策の英文資料を配布してプレゼンテーションを行った。

日本のドーピング対策については各国VIPより驚きと称賛を受け、IFBB会長のサントンハ氏からもお褒めを頂きました。

また、日本から会長の状況報告を受け玉利会長が回復に向かっていることについて良い知らせがあったと説明された。その他ボディビル競技のオリンピック参加へ向け精力的に会長自ら外交交渉を行っており、多くの国の理解が進んでいること。また難民に対してもオリンピック同様参加が出来るようにしていくこと。エリートカップの得点獲得により賞金大会の促進、親とともに子供も競技に参加し、家族でスポーツを楽しむ文化を発信していくことなどが指針とともに報告された。

【総括と問題点】

- ① 今年のアジア選手権は当初マニラであったところ2か月前に返上され、モンゴルが急遽引き受け、開催することになった。モンゴル連盟は大会準備期間の少ない中での素早い対応と素晴らしい大会開催に対し、オチール代表に各国が多くの賞賛をした。
- ② 成田20人、関空7人、福岡1人で出発し、韓国仁川空港で合流後ウランバートルに全員入国した。ホテルでは部屋が当初の希望どおりになっておらず、混乱があり、朝生と木下美弥子コーチでモンゴル連盟側と交渉し、決着がついたのが日本時間で午前3時半になってしまい役員、選手皆くたくたになってしまった。結局、選手はダブルをツイン利用のため一人は床で寝ることになってしまい5日間我慢することになった。
- ③ 1日目は女子競技で2日目は男子競技を全て行い、それぞれ木下喜樹コーチ、藤原会長代行が審査を行った。私はアジア選手権に初めて出場する選手が半数ほどいるのでアドバイスや出場準備など総括的に動いた方が選手にとって良いと考え動き回ることにした。
- ④ ドーピングテストを5位になった溝口選手が指名された。全体で何人が受けたかは不明ではあるが、真剣にドーピング対策をとっている日本が対象になることは今後もあると考えられる。
- ⑤ 今回もポージングチェックを希望者に行い20名という、ほぼ全員が受けた。課題としてポーズの改善を勧めても本人がなかなかうまく取れず、当日変更前に戻したケースが一人いた。本人にとってそうした方が良いと判断したが、器用さの問題もあり、すぐに来ない人もいる。このことは指摘が違っているのではなく、本人がうまくできない場合は無理に修正せず、納得出来たら直したら良いと考える。
- ⑥ 女子の水着については、女子委員会でサイズや形を指導しているが、外国の水着と比べると股上が深く洗練されていないように見えた。国際大会に出場している選手は形を変えて出場しているが、日本の中には日本基準の水着を使用し出場している選手は見劣りしているようにも思えた。

したがって、女子選手にとって安いものではないのもう少し基準を検討し、国内用、国際用などにならないようにしたらどうか。出来れば日本人の体形に合った水着を研究開発すべきではないだろうかと感じた。

⑦ 今回は、選手から役員の業務分担も適切で競技し易かったと聞いている。斉藤円コーチは客席最前列で指示を出し、木下美弥子コーチもその近くで陣取り連携し、英語により必要な情報を取得して、選手控室に来て私や選手に伝えたりした。また木下喜樹コーチもジャッジ以外の時は選手のパンプアップを手伝ったり、進行状況や人数を確認したり精力的に動いていた。このように連携をとって仕事を行うことで次の成果を上げられたと思う。

1位(金メダル)倉地、田村、山下(マスターズ) 計3個

2位(銀メダル)赤澤、浅野、福島、澤田、山下(一般)山本 計6個

3位(銅メダル)加藤、阿部、多田 計3個

4位 井上、斎藤、重岡、丸山 **5位** 溝口 **6位** 田口、秋本

8位 三船 **9位** 山口、長嶋

女子総合2位 男子総合6位

最後に藤原会長代行は持病の腰痛のあるところ男子のジャッジを朝10時過ぎから夜10時までの12時間近く審査をして、本当に大変だったと思います。二年前に日本では国際ジャッジを13人取得したので今後はいろいろな人に参加して頂きたい。

ただし、国際審査員資格取得者であっても資格だけでなく、出来れば国際大会に参加経験のある人や選手経験のある人が望ましいと考えます。監督やコーチも国際大会に精通している人を優先し、いざとなればコーチやジャッジも出来て即戦力となる人を派遣して欲しいと考えます。

選手経験のない人は選手に寄り添い多くを学び、経験を積んで指導できる審査員コーチを目指して欲しいと思います。

今後の日本選手の益々の活躍を期待します。

2017・5・30

2017アジア選手権監督 朝生照雄